

レビの会 ご案内

※6月は日本語礼拝についての色々な話し合い、
交わりを共に致しましょう。

時間：6月8(主) 部礼拝後
場所：3階食堂

※5月の聖書勉強会は合同礼拝の為お休みとなります。
次回の聖書勉強会は7月13日になります。

時間：7月13日(主) 部礼拝後
場所：3階女性会室

活動報告

- 4/13(主) I部礼拝後レビの会を行う。 出席者 21名
日本語礼拝 愛餐会並びにレビの会に出席頂き感謝致します。
今後ともよろしくお願い申し上げます。



ホサナ聖歌隊 隊員募集中です。

練習時間：主日8時30分～9時30分 (3F 308号室)

部礼拝後 11時～12時 (3F 308号室)



ご意見ご感想はリーダー、編集者までよろしくご願ひ申し上げます。

レビの会 リーダー：崔 朱里

レビニュース 編集者：宮脇盛人

メール rebi-news02519@hotmail.co.jp

レビの会 ニュース

http://www.osakachurch.or.jp/jpnworship_rebi.html

神様に愛されている喜びを、分かち合ひましょう。

レビの会 News



わたしは主、あなたの神
わたしはあなたを教えて力をもたらせ
あなたを導いて道を行かせる。

(イザヤ書 48:17)

発行 2008年 5月 11日(第2主日)

No. 64

題目:「時をよく用いなさい」

在日大韓基督教
大阪教会

2008年5月4日

聖書箇所:エフェソの信徒への手紙 5:16-20

「時をよく用いなさい」と今日の16節の御言葉は教えています。与えられている時をよく用いることこそ、主の御前によく生きることです。よく生きるためには、時をよく用いることが大切です。もともとギリシャ語の原文では、時を贖う(買い戻す)という表現が取られています。時を生かす、時をよく用いるという意味で時を買い戻しなさいというのです。なぜ、時をよく用いることが、時を贖うと表現されるのかと言いますと、それは、16節の後半の、「今は悪い時代なのです」と関連しています。今は悪い時代、罪と悪が栄えている時代であるから、この時代の時を贖って清めなさいということなのです。つまり、今日の御言葉が語りかけていることは、あなたたちは今、悪い時代の中にいるが、あなたたちは今の時代を贖い、清めるために、時をよく用いなさいということなのです。単に歳月を惜しみなさいという意味ではなく、時をよく用いて、時を罪から贖い出しなさい、この時代を救い出しなさいという意味が込められているのです。すなわち、あなたたちは罪なる世に染まるのではなく、この時に与えられている神の御心が何であるかを悟り、その御心をなすことによって時を清めることが、時をよく用いることなのです。

聖書の御言葉が、私たちに「時をよく用いなさい」と教える時、そこに込められていることは、それぞれの時に与えられている主の御心を悟り、従いなさいということなのです。そして与えられている時を主の聖霊で満たし、霊的な賛美と主の恵みへの感謝で満たしなさいと教えています。そうしてこそ、私たちは、今の悪い時代を清め、罪から贖い出すことができます。もちろん、その救いは私たちの力から来るものではなく、主なる神様の恵み、イエス・キリストの恵みによるものです。私たちはその恵みに与り、共にする時に、自分に与えられている時間を清め、私たちが生きる時代を救い出すことができます。

主を信じる者にとって、すべての時間の中心には主がおられます。時間の主は創造主なる神様です。そして人の歴史の中心には、イエス・キリストの十字架があることを私たちは告白するのです。イエス・キリストの十字架の愛、私たちが罪から贖い出し、私たちの時間を恵みの時間へと変えてくださる十字架が、この世界の時間の中心に立ち上げられているのです。私たちがどの時間にあっても、いついかなる時も、救いの印、救いの約束として、永遠の時間のうちに立っているのが主の十字架です。私たちが、この世の時間、与えられている時間の中で、その十字架を見上げる時、私たちは、「今や恵みの時、今こそ救いの時」と告白するのです。そして、その告白の中で、私たちは主の御心に従って時をよく用い、与えられている時を恵みの霊で満たし、賛美と感謝で満たすのです。私たちのその信仰の営みによってこそ、この時代は清められるのです。その信仰の働きが、豊かに私たちと共にあることを願います。

今年ももう五月に入りました。あっという間という感じがします。私たちに与えられている時間はかけがえのないものです。私たちがいつこの世の時間を去ることになるかわかりません。もし、明日が、私の最後の日だと思ったら、この一年が最後の一年だと思ったら、皆さんはどのように生きられるでしょうか。世の終わりは誰にとっても差し迫っています。切迫しています。いつ来てもおかしくありません。そのことを覚え、主が与えてくださっているかけがえのない時をよく用い、時間の主である神様に栄光をささげる私たちであることを願います。

孫信一 牧師

教会創立87周年を迎えて メッセージ 孫信一 牧師

私たちの大阪教会は、今年で創立87周年を迎えました。

朝鮮半島が日本の植民地とされ、様々な形で国と民族が略奪されて行く中で、故郷を離れ、異国の大阪の地に、信仰者が集い始めて、87年という歳月が流れたわけです。その間、日本の侵略戦争や朝鮮戦争といった歴史の荒波の中で、この地の在日同胞たちによって、主の福音を証しする十字架が立てられてきたことは、主なる神様の導き以外の何ものでもありません。戦後、祖国から切り離されて信仰を守り続けてきた同胞の群れが、韓国の経済発展と教会成長、そしてグローバル化といった時代の変遷の中で、ニューカマーの信徒や地域の日本人を受け入れながら、新しく教会形成を成そうとしているのが、現在の私たちの教会の自画像です。この新しい教会形成において、最も大きな課題となるのは、言葉の問題です。ウリマル(ハングル)での礼拝という原則から、かつては強要された日本語による礼拝を、私たち自らが進んでささげる時代を迎えているのです。

大阪教会の日本語礼拝は、1981年に始められています。

今から27年前ですから、短い歴史ではありません。その間、多くの先生方が説教の奉仕をしてくださり、多くの信徒たちが礼拝を守ってきました。韓国教会という看板のもとで日本語による礼拝をささげ続けることは、時代の要請でもありますし、この日本の地で宣教の使命を与えられている主の教会にとって、望ましいことであるとも言えましょう。そしてまた、私たちが日本語による礼拝をささげる時に、私たちは日本語の持つ特質、その美しさをより深めていくことになるのです。

私たちのささげる礼拝は、言葉による礼拝であります。

もちろん、それは神の御言葉によるという意味での御言葉の礼拝なのですが、その礼拝において日本語を用いる時、私たちは日本語が持っている感性を通して神に祈り、神の御言葉を聞くのであります。日本語でものを考えることが、ハングルで考えることと決して同じでないように、日本語による礼拝には、ハングルの礼拝とは違う、日本語だけが表わすことのできる豊かさがあります。そのことは日本語に限らず世界のどの言葉についても言えることですが、在日コリアンを含めて、日本語を母語とする者には、日本語の持つ独特の美的感性が備わっているのです。ハングルにはハングルの心があるように、大和言葉には大和言葉の心があります。もののあわれや、わび、さびといった美意識が、日本語を母語とする人たちに共有されています。ただし、それぞれの言葉の感性は、決して排他的なわけではありません。神から人間に与えられている言葉の感覚は、互いに分かち合うことのできる普遍性を持っているのです。独善的な美学ではなく、言葉に対するしなやかな感性によって、人はより豊かに世界と神を受け入れていくのです。

神から霊と言葉を与えられている者として、人間は言葉を通して神に近づきます。

そしてまた、さまざまな言葉によってささげられる礼拝を通して、神はよりいっそう豊かに、私たちに近づいて来てくださるのです。ハングルと日本語、違う歴史と感性を持った言葉が同じ大阪教会でささげられること、それは主にある大いなる恵みです。民族の壁を乗り越えようとする大阪教会の日本語礼拝が、これからもいっそう主の祝福に満たされて、神の御言葉を豊かに表わす礼拝であり続けることをお祈りします。「言(ことば)は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。」(ヨハ1:14)

